

選後の御挨拶

倉 橋 惣 三

今度は大層多くの方が應募して下さつて、誠によろこばしいござでした。幼稚園等にこんなに詩人の多いことは、流石に敬服しました。童謡は童話よりも短いもので、ちょつと出来るものゝやうに思ふ人もありませうが、童話は、或は考へでこしらへ上げることも出来ますのに、童謡は詩ですから、感興が涌いた時でない出來ません。ですから、この一篇でも貴いものに拜見しました。皆それゝ結構ですが、募集の趣旨が、「作曲して子どもに歌はせるもの」ありますので、その條件にあるものを選に入れました。幼児の心を以て歌はれた詩に、詩として立派なものが澤山ありましたが、右の趣から選に入れませんでした。その點、悪しからず。

さて、

これまで昭和十二年から續いたフレーベル賞懸賞の計畫を一段とします。童話三回、童謡二回、手技一回で、それゝ、いゝ作品をお寄せいたしました。此のフレーベル賞はフレーベル館の創業記念祝ひの爲、同社長高市氏が、幼稚園界へとの志によつて金一千五百圓を寄附され、それを日本幼稚園協会に委託せられたことによつたもので

す。こゝに一段落を終ると共に、各回應募して下さつた方々によつて、高市氏の幼稚園界振興の志も達せられたことを、欣びにたへません。こゝに高市氏のために喜ぶと共に、又その間、審査に當つて下さつた諸先生に更めてお禮を申上げます。

尙ほ序に申上げ置きますが、應募作品のすべてを皆、審査員方に見て頂き、その採點を平均し、その順位によつて選を定めました。その爲、或る審査員が大いにいゝ點をつけになつたものでも下になつたり、又その反対のこともありました。ですから選外の人もその特長は認められてゐるゝことです。但し、等に入った方々は、大體、どの審査員の點も揃はなくては、かう上位になりますまい。そして同點で一方のみを探り難く、規定には違ひましたが、三等が二つ出来た譯です。めでたい。

×

×

×

×

×

×